

事務事業 事後評価シート（令和6年度実施事業）

事務事業名	地域文化振興事業				事業通番	5506	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化振興費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化芸術振興基本法						
事務事業の概要	本町の伝統・芸術文化の振興を図るため、補助金交付を通じて各種文化団体の活動支援を行う。複合文化施設を町民の芸術文化活動の拠点・交流の場として位置づけ、芸術文化振興事業により、町の文化芸術の更なる振興を図る。						
対象（誰、何を）	町民の芸術文化振興に寄与すると認められた文化団体						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	各団体活動を通して、芸術文化の振興を図る。						
成果の考え方	文化団体を支援することにより、本町の芸術文化の振興が図られている。						
【成果指標】							単位
A	補助金が交付される団体数						団体
B	文化団体協議会加盟団体数						団体

2. 事業の実績

（1）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(決算)	7年度
事業費(千円)	969	1,939	2,182	2,557	
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	363	312	991	1,261	
一般財源	606	1,627	1,191	1,296	

（2）指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	2	2	2	2	
	1	2	2	2	
B	52	52	52	52	
	49	49	44	44	

（3）活動実績及び成果

活動実績	芸術文化活動等を行う2つの団体に対し、生涯学習振興事業補助金620,000円を交付した。金管五重奏団BuzzFiveコンサートを開催し、音楽による芸術文化に触れる機会を創出した。（コンサート来場者：町民等187人、アクティビティ：町内中学生117名）						
成果	生涯学習振興事業補助金を交付し、団体活動を支援することにより、町総合美術展、ジュニア文芸表彰式を開催することができた。また、公共ホール音楽活性化事業の実施により、本町の芸術文化の振興に繋げることができた。						

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	（理由） 芸術文化活動団体への支援と芸術文化に触れる機会の創出により、芸術文化の振興を図る。
コストの方向性	現状維持	（理由） 公共ホール活性化事業等の助成金を活用し経費の節減を図る。また、補助金の交付については、内容を精査し適正な支出に努める。
今後の方向性	現状維持	（理由） 町民の芸術文化活動に対する支援により、町民の芸術文化に親しむ機会の創出し、芸術文化の振興を図る。

事務事業 事後評価シート（令和6年度実施事業）

事務事業名	遺跡調査・整備事業				事業通番	16760	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化財保護費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法、福島県文化財保護条例、会津美里町文化財保護条例、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、会津美里町区域内開発に係る埋蔵文化財保護事前協議要綱						
事務事業の概要	町の埋蔵文化財を適切に管理し、保存や公開に努める。また、全国有数の重要な中世山城跡である向羽黒山城跡を保存し、永く後世へ伝えるため、これまで実施した調査整備事業の成果を踏まえ、「向羽黒山城跡保存活用計画」の策定を進める。（令和7年度策定予定）						
対象（誰、何を）	①向羽黒山城跡への来場者 ②開発等の対象となる遺跡地						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	①向羽黒山城跡が整備・管理されることで、関心をもって城を訪れる方が増加する。 ②遺跡の記録が保存され、遺跡地の情報が蓄積される。						
成果の考え方	①向羽黒山城跡を広く周知するために、城に関する事業への参加者数と整備資料室への来場者数を指標とする。 ②開発事業等に伴う遺跡地の照会件数を指標とする。						
【成果指標】						単位	
A	向羽黒山城跡事業等に関わりのあった方の人数						人
B	遺跡地の照会件数						件

2. 事業の実績

（1）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(決算)	7年度
事業費(千円)	4,030	3,758	568	3,347	
国庫支出金	1,632	3,000		1,000	
県支出金					
地方債					
その他				317	
一般財源	2,398	758	568	2,030	

（2）指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	500	1,000	1,200	1,300	
	1,039	1,266	1,292	1,854	
B	30	50	50	50	
	64	40	38	58	

（3）活動実績及び成果

活動実績	・令和6年度と7年度の2か年で策定する「向羽黒山城跡保存活用計画」に着手した。 ・向羽黒山城跡を訪れる方々が、見学の際、城の痕跡や残存地形が分かるようにするため、下草刈りや枝払い等を実施し、城内の環境整備を行った。 ・埋蔵文化財保護のため、埋蔵文化財包蔵地内における開発事業等の計画に伴う照会事案について対応した。
成果	・向羽黒山城跡保存活用計画策定に向けて、専門家や地元関係者からなる策定委員会を開催し、計画書の内容等について協議を進めることができた。 ・向羽黒山城跡の環境整備を実施したことで、訪れた方々には、城の痕跡や残存地形をはっきりした状況で見せることができた。

3. 最終評価

成果の方向性	拡充	（理由） 文化財の周知及び保存・活用・継承の重要性についての理解を深めるための取組を行う。
コストの方向性	現状維持	（理由） 国庫補助金を活用し向羽黒山城跡保存活用計画の策定作業を進める。また、町内の埋蔵文化財を保護するため各種開発事業等に対して適切に対応する。
今後の方向性	生産性改善	（理由） 向羽黒山城跡の今後の保存活用の在り方を定めるとともに、各種開発事業区域における埋蔵文化財への対応を着実に行う。

事務事業 事後評価シート（令和6年度実施事業）

事務事業名	文化財保存・活用事業				事業通番	16761	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化財保護費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・文化振興基本法・会津美里町歴史文化基本構想						
事務事業の概要	町の歴史文化を後世に継承するため、文化財の調査及び保存、活用事業の実施、郷土資料館の運営、向羽黒山城跡保存活用計画策定、町民の歴史文化継承活動の支援等を行う。 【主な取組】令和6年度は向羽黒山城跡保存活用計画策定業務を委託し、向羽黒山城跡の今後の保存及び活用の方法を十分に検討し、計画を策定する。						
対象（誰、何を）	町内外の人々						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	町民が、町の文化財や郷土資料を通じ、地域の歴史文化への関心及び文化財保護や活用の重要性を認識し、自分たちの地域に対する愛着や誇りを持つ機会を創出するとともに町民でない人にも郷土資料館や文化財を訪れることを通じて、理解を深めてもらう機会を創出する。						
成果の考え方	講演会や郷土資料館への来館等により町民が地域の文化財や郷土資料に触れる機会をどの程度創出することができたのかを成果指標とする。						
【成果指標】						単位	
A 講演会等により町の歴史文化に親しむ機会を持った町民の数						人	
B 町民向けの文化財保護及び活用に関する周知の場を創出した件数						件	

2. 事業の実績

（1）事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(決算)	7年度
事業費(千円)	161,519	170,461	28,129	23,619	
国庫支出金					
県支出金		5,693	3,643	460	
地方債	128,800	148,600	0	3,300	
その他	27,500	7,800	73	5,169	
一般財源	5,219	8,368	24,413	14,690	

（2）指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	1,250	1,250	1,300	1,400	
	1,180	1,758	2,600	3,214	
B	5	5	7	9	
	5	7	7	17	

（3）活動実績及び成果

活動実績	・町の歴史を学び、郷土愛を育む歴史講演会「イザベラ・バードはなぜ会津を旅したのか」を3月2日に開催し、約100人の参加者があった。 ・郷土資料館の運営を行い、844名の来館があった。 ・資料館スタッフが共通認識をもつため、運営ビジョン・運営方針などを策定した。
成果	・郷土資料館運営委員会において、経営ビジョン・運営方針などを審議し、共通の目標を策定することができた。 ・郷土資料館の各種イベントを通じて、郷土資料館を周知することができた。

3. 最終評価

成果の方向性	拡充	（理由） 郷土資料館の積極的な情報発信と収蔵物を活用した体験型事業の実施、更には企画展の開催などにより入館者の増加を図る。
コストの方向性	現状維持	（理由） 町に関する歴史資料等を収集し、調査・研究する拠点として機能と、来館者の学びをサポートする体制の充実を図る。
今後の方向性	生産性改善	（理由） 郷土資料館のさらなる周知に努め、情報収集・調査研究に積極的に取り組み歴史と文化の拠点として適正な運営に務める。